



磯谷 桂治 作 「オルセー美術館」(水彩)

「芸術の都、パリ」の名にふさわしいオルセー美術館。イタリア建築の旧オルセー駅舎を改造し、1986年に開館。19世紀後半から20世紀初頭までの絵画、彫刻、工芸等を展示。セーヌ川が陽光を反射してパリを明るく照らしています。



生田 文治郎 作 「修理船のある港」

愛知県碧南市に住む画家。地元の漁港風景に魅せられ、それを本作品のように、落ち着いた色調としっとりとした質感で描き続けています。現在の風景を後世に残していきたいという作者のやさしい思いが伝わってきます。



中嶋 岩雄 作 「カリブ海とサトウキビ」

作者はブラジル在住の画家で、陽気な南米らしい、明るくて鮮やかな色彩で描いています。本作品では、カリブ海とその沿岸に住む人々が一体となった営みをほのほのと描出。少しコミカルな表現が見る者を楽しくさせます。



待井 恭子 作 「翠のプレリュード」

初めは「空気」という題名がついていました。作者にとつて、絵画はモノを並べるのではなく、そこに漂っている空気、そして自身の心を通した色彩で描かれたものです。空間が上手に描けるように、新境地を開きたいと語っています。